

Book Review

インプラントメンテナンス アップデート 臨床判断を再定義する

齋藤花重 著



Reviewer

築山鉄平 Teppei Tsukiyama

(福岡県・つきやま歯科医院専門医療センター天神)

A4 判変, 90 頁

カラー

定価 7,700 円

(本体 7,000 円+税 10%)

医歯薬出版刊

インプラント メンテナンス アップデート

臨床判断を再定義する

著 齋藤花重
共著文 Dennis P. Tarnow

Implant Maintenance:
Reframing Clinical
Decision-Making

Honoka Sato

医歯薬出版株式会社

●インプラント治療成功の本質を 「術後管理」から問い直す一冊

齋藤先生とは 2010 年前後にアメリカ歯周病専門医課程の苦楽を共にした同志である。同時期の日本人留学生で女性歯科医師はまれだったので非常に印象的だったので鮮明に覚えている。当初から周囲の男性留学生歯科医師にとっても「姉御肌」的な存在で、非常にストレートな表現をされる一方、人間関係もとても大切にされるクールヘッドとウォームハートをもつ歯科医師である。気がつけばアメリカ歯周病界において One and Only の存在感を放っており、彼女なしでは学会コンセンサスは生まれないのではないかと、思わせるくらい歯周病学・インプラント学の学術・研究における日本人の第一人者である。そのフロントランナーが、現場対応に苦慮するインプラント周囲炎に関して現場の歯科医師、歯科衛生士に向け大変わかりやすい書籍を執筆された。それはカジュアルなグローバルコンセンサスと思ってい

近年のインプラント治療は、デジタルワークフローや材料学の進歩によって、埋入精度や審美性の向上が著しい。一方で、長期的成功率を左右する最大の要素は依然として「メンテナンス」であることに異論はないだろう。本書はその本質に真正面から切り込ん

だ一冊である。本書の最大の特徴は、「インプラント周囲炎をいかに治すか」ではなく、「いかに発症させないか」という予防中心の思想に貫かれている点にある。インプラントは天然歯とは異なる生物学的特性を有し、上皮性付着、結合組織の走行、血流供給などにおいて脆弱性を抱える。著者はその点を踏まえ、天然歯のメンテナンスの延長線上としてではなく、「インプラント特有のリスク管理学」としてメンテナンスを再定義している。

特に印象的なのは、メンテナンスを単なる「クリーニング技術」に矮小化していないことである。患者のリスク評価、セルフケア能力、補綴形態、咬合、軟組織マネジメント、さらには患者教育や医院システム設計に至るまで、多角的な視点から論じられている。これは、インプラント治療を包括的医療として捉える現代歯科医療の方向性とも一致する。

また、本書は歯科医師だけでなく歯科衛生士へのメッセージ性が非常に強い。日常臨床においてインプラント患者と最も長期的に接点をもつのは、多くの場合歯科衛生士である。著者は、インプラントメンテナンスの成否は「担当 DH の観察力と介入力」に大きく依存すると繰り返し示唆しており、その視点には大きな共感を覚える。

さらに特筆すべきは、エビデンスと臨床経験のバランス感覚である。インプラント周囲炎に関する研究は増加しているものの、依然として診断基準や介入法には議論が多い。本書では、単なる論文の羅列ではなく、「臨床現場では実際どう考えるべきか」というリアリティのある解釈が提示されている。そのため、大学教育的な堅さではなく、チェアサイドに直結する実践書として読める点が魅力である。

著者は、メンテナンスは「治療後サービス」ではなく、「治療そのものの一部」であることを明確に示している。本書を読んで改めて感じるのは、インプラント治療の本当の勝負は埋入日ではなく、その後の 10 年、20 年にあるという事実である。オペ技術やデジタル機器が目立つ時代だからこそ、「地味だが本質的」なメンテナンスの価値を再確認させてくれる。

本書は、インプラントを行う歯科医師はもちろん、歯科衛生士、若手臨床家、さらには医院全体で長期予後を重視した医療を実践したいすべての歯科医療従事者にとって、一読に値する書籍である。華やかなテクニック論ではなく、「患者を長く守る歯科医療とは何か」を静かに、しかし力強く問いかける良書である。